

牛久：学校周辺に見る自然

第32号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月20日発行

< 動物のすみか ～ ⑧ ガのなかま >

9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はガのなかまを紹介しましょう。チョウとガははっきりとした区別がないのでチョウの記事の後につくるつもりでいましたが、うっかりしていました。この第32号で紹介いたします。また先日18日に、学級閉鎖で延期になっていた2組さんたちとようやく観察ができました。その報告については、後日続報の形でつくりたいと思います。



マルバハギを訪れたシロモノメイガ(左)と、ヒナタイノコヅチの蜜を吸っていたシロオビノメイガ(右)。

ガのなかまはチョウと同じく幼虫は植物の葉を食べますが、成虫については何を食べているのかわからないものも多いようです。上はどちらもノメイガのなかま、花の蜜を吸って育ちます。



シラカシの葉の裏にじっとしていたまっ白なシロヒトリ(左)と、コナラの葉の裏にいたあざやかなピロードハマキ(右)。

シラカシの枝が風でゆれたときに、葉の裏に白いものが見えました。近づいて確認すると、まっ白で足のつけ根が赤いやや大きめのガでした。その名もシロヒトリ。まぶしいくらいの白さです。幼虫はギシギシやタンポポなどの葉を食べますが、成虫の食べものは不明のようです。そしてコナラの葉の裏には、ピロードハマキというあざやかなガがいました。幼虫はいろいろな広葉樹の葉を食べますが、成虫はやはり何を食べているのかわからないそうです。第30号で北上するチョウの話をしました。このガも以前は房総半島が分布の北限とされていました。現在は、福島県南部が北限だそうです。



最後に、ミノムシ。これもガなの？と思うかもしれませんが、中にはミノガ科の幼虫が入っていますが、古いものではからの場合もあります。おすはやがて羽化すると外へ出ていきますが、めすは大部分の種類で成虫になっても羽や足がなく、一生をみの中ですごすそうです。写真はネグロミノガ。木ではなく、イネ科植物の茎でみを作ります。卵で越冬するので、冬にはからっぽになるそうです。【理科支援員：宮内】

イネ科植物の茎でみをつくるネグロミノガ。